

高知県地方人口ビジョン等基礎調査 委託業務報告書（抜粋版）

目次

1 高知県の人口動態にかかわる既存調査結果の整理	p.3
2 令和6年度就職・進学希望地等意識調査	p.4-8
3 若年層ヒアリング調査	p.9-16
4 考察	p.17-22

既存調査整理の目的と論点について

これまで、高知県では人口動態に関する各種調査を実施してきた。

その結果、一定の知見が蓄積してきたものの、それらが各報告書にばらばらに記載されており、人口動態及びそれに影響する要因の全体像が見通しにくい状況にある。

今般、高知県が本格的に人口減少対策を検討・実施するにあたり、これまで蓄積してきた知見を1つにまとめ、人口動態の全体像を把握できるようにすることが有効であると考える。

本調査は前述の考え方に基づき、高知県の人口動態に関する知見をまとめ、今後の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

既存調査一覧

No	アンケート・ヒアリング名	実施時期
1	就職・進学希望地等意識調査	令和元年度
2	人口移動に関する意識調査	令和5年度
3	出会いから結婚・子育てまでの切れ目のない支援のための県民意識調査	令和5年度
4	「女性の活躍と、仕事と子育ての両立」に係るアンケート調査	平成28年度
5	女性登用等実態調査	令和3年度
6	男女共同参画社会に関する県民意識調査	令和元年度
7	大学生Uターン就職実態調査	令和5年度
8	県内大学生の本県への満足度等に関するアンケート調査	令和5年度
9	若年女性のヒアリング調査	令和3年度

2.令和6年度就職・進学希望地等意識調査

調査概要

調査目的	本調査は、高知県人口の将来展望を達成するために必要な社会増減に関する目標に対して要因となる学生の県内定着に係る就職や進学の希望等について把握する目的で実施			
調査対象	- 県内の高校で就学している生徒 - 県内の大学・短大・高専で就学している学生 - 県内の専修学校で就学している生徒 - 県出身者で県外の大学等で就学している学生			
調査方法	webフォームによるアンケート調査			
実施期間	令和6年5月28日（火）～令和6年7月10日（水）			
質問項目	【属性】 性別、年齢、学年、入学までの最長居住地、専攻 【進学について】 - 希望の進学先、希望の進学地 - 進学地が県内／県外である理由 - 進学地に県内・県外両方を検討する理由 - 将来的なUターン意向（※県外希望者のみ） 【就職について】 - 希望する職種 - 就職先の企業に希望すること - 就職関係情報の収集方法 - インターンシップへの参加意向や興味のある内容、期待すること - 希望の就職地 - 就職地が県内／県外である理由 - 就職地に県内・県外両方を検討する理由 - 将来的なUターン意向（※県外希望者のみ）			
有効回答率	学校種別	対象数	有効回答数	有効回答率
	県内高校生	5,040	3,779	75.0%
	県内専修学校生	894	648	72.5%
	県内大学生等	2,623	1,053	40.1%
	県外大学生等	203	35	17.2%

結果の概要（進学者、1 / 2）

【進学】

（１）進学者の割合は、県内高校生が80.3%、県内専修学校生が3.1%、県内大学生等が15.8%、県外大学生等が2.9%

（２）進学者のうち、県内を希望する割合は、男性43.5%に対して、女性54.1%と女性の方が高い

	男性	女性
県内希望	43.5%（580人）	54.1%（757人）
県外希望	56.5%（754人）	45.9%（641人）
合 計	（1,334人）	（1,398人）

（３）学校種別ごとの希望進学地

- ① 県内高校生（n=3,035）は、「県外」が44.9%、「県内」が42.0%、「県内・県外両方を検討」が13.0%
- ② 県内専修学校生（n=20）は、「県内」が70.0%、「県外」と「県内・県外両方を検討」が15.0%
- ③ 県内大学生等（n=166）は、「県内」が39.2%、「県内・県外両方を検討」が31.3%、「県外」が29.5%
- ④ 県外大学生等（n=1）では、「県外」が挙げられている

（４）県外進学希望者の進学地

- ① 県外進学地としては、男女ともに、「関西」、次いで「中国・四国」を希望する割合が高い
- ② 男女別では、女性の方がより、本県に近い場所を希望する傾向にある

	男性	女性
中国・四国	25.4%（194人）	31.5%（205人）
関西	43.9%（336人）	44.4%（289人）
関東	17.3%（132人）	15.7%（102人）
その他	13.5%（103人）	8.4%（55人）
合計	（765人）	（651人）

結果の概要（進学者、2 / 2）

【進学】

（5）県内高校生の進学希望地選択の理由

- ① 県内とする主な理由は、「希望する学校・学部があるから」が63.6%、「住み慣れた地域にいたいから」が48.8%、「現在住んでいる地域外の進学はお金がかかるから」が28.2%
- ② 県外とする主な理由は、「希望する学校・学部があるから」が78.0%、「将来の就職を見据えた場合に有利だと思うから」が40.2%、「都会で学びたいから」が33.1%

（6）県外進学希望者における将来的なUターン希望

- 県外進学希望者のうち、将来的なUターン希望が「ある」と「少しある」と回答した割合は、中国・四国地方への進学者で83.4%と、関西地方の72.1%、関東地方の65.0%と比べて、10ポイント以上高くなっている

2.令和6年度就職・進学希望地等意識調査

結果の概要（就職者、1／2）

【就職】

（１）就職者の割合は、県内高校生の19.7%、県内専修学校生の96.9%、県内大学生等の84.2%、県外大学生等の97.1%

（２）就職者のうち、県内を希望する割合は、男性58.5%、女性64.4%と過半数が県内就職を希望、特に女性の方が高い

	男性	女性
県内希望	58.5%（431人）	64.4%（533人）
県外希望	41.5%（306人）	35.6%（295人）
合 計	（737人）	（828人）

（３）学校種別ごとの希望就職地

- ① 県内高校生（n=744）は、「県内」が54.6%、「県内・県外両方を検討」が25.5%、「県外」が19.9%
- ② 県内専修学校生（n=628）は、「県内」が49.4%、「県内・県外両方を検討」が32.2%、「県外」が18.5%
- ③ 県内大学生等（n=887）は、「県外」が38.2%、「県内・県外両方を検討」が35.1%、「県内」が26.7%
- ④ 県外大学生等（n=34）は、「県内」が52.9%、「県内・県外両方を検討」が32.4%、「県外」が14.7%

（４）県外就職希望者の就職地

- ① 県外就職地としては、男女ともに「関西」、次いで「中国・四国」を希望する割合が高い
- ② 男女別では、女性の方が「関西」を希望する割合が高い

	男性	女性
中国・四国	28.2%（89人）	24.0%（75人）
関西	31.6%（100人）	40.1%（125人）
関東	18.7%（59人）	18.9%（59人）
その他	21.5%（68人）	17.0%（53人）
合計	（316人）	（312人）

2.令和6年度就職・進学希望地等意識調査

結果の概要（就職者、2／2）

（5）学校種別、男女別の希望職種

学校種別	性別	1 位	2 位	3 位
県内高校生	男性(n=477)	製造系技術職：24.5%	公務員：21.4%	土木・建築系技術職：16.6%
	女性(n=260)	サービス職：19.6%	公務員：18.5%	事務：12.7%
県内専修学校生	男性(n=227)	サービス職：18.5%	公務員：16.7%	I T系技術職：13.2%
	女性(n=391)	サービス職：24.8%	看護師・保健師・助産師：23.5%	保育士・幼稚園教諭：8.4%
県内大学生等	男性(n=357)	その他医療系専門職：20.4%	教員：14.8%	公務員：14.6%
	女性(n=524)	その他医療系専門職：27.9%	公務員：12.8%	教員：11.5%
県外大学生等	男性(n=10)	公務員：30.0%	営業：20.0%	－
	女性(n=24)	企画・マーケティング・管理：25.0%、公務員：25.0%		金融・保険：16.7%

（6）県内就職希望者の傾向

- ① 県内就職を希望する主な理由は、学校種別、男女別に関わらず、「住み慣れた地域にいたいから」、「住んでいる地域が好きだから」を挙げる人が多かった
- ② 就職先の企業に希望するものは、「休暇がとりやすい」（43.4%）、「給与や賞与が高い」（41.6%）、「経営が安定している」（33.2%）の順で多かった

（7）県外就職希望者の傾向

- ① 県外就職を希望する主な理由は、「都会で働きたいから」、「希望する就職先があるから」、「給料や待遇などの労働条件が良いから」を挙げる人が多かった
- ② 就職先の企業に希望するものは、「福利厚生制度が充実している」（43.9%）、「給与や賞与が高い」（43.1%）、「休暇がとりやすい」（34.9%）の順で多かった

（8）県外就職希望者における将来的なUターン希望

- 県外就職希望者のうち、将来的なUターン希望が「ある」と「少しある」と回答した割合は、高校で77.0%、専修学校で71.5%、大学等で51.1%と、学歴が高くなるほど、将来的なUターン希望が低くなっている

若年層ヒアリング調査 実施概要

調査の実施概要と調査対象は以下のとおり。

調査概要

目的	貴県における若年人口の増加、婚姻数の増加、出生数の増加に向けた施策検討のために、若年層の県内定着に係る意識について、県外居住を選ぶ（考える）理由と論点を把握する。
実施方法	- グループインタビュー形式にて実施 - インタビューの実施方法は原則オンライン形式。一部、対面集合形式にて実施
時間	1グループあたり60～90分ほど
対象	- 県内外在住の18～34歳の女性 - 居住地、年齢、性別、結婚の有無、子どもの有無などの属性条件に基づきグループ化
調査項目	- 進学タイミングで、県外居住を決めた理由の把握（学びたいこと、大学場所、周囲の影響等） - 就職タイミングで、県外居住を希望する（決めた）理由の把握（希望する業界・職種、勤務地、賃金・給与、就業環境、固定的な性別役割分担意識、周囲の影響等） - Uターンに関する意向や阻害要因、Uターン施策の認知度等の把握 - 交際の方、結婚観・家族観の把握 - 出産・子育てに対する効果的な支援策の把握 - 固定的な性別役割分担意識と仕事・結婚・出産・子育てへの不安との相関関係等

属性別のヒアリング実施数

属性構成			実施対象数（人）
県外 居住	学生		21
	社会人 高卒 大卒	未婚	18
		既婚（子無し）	6
		既婚（子有り）	10
県内 居住	学生		11
	社会人 高卒 大卒	未婚	13
		既婚（子無し）	9
		既婚（子有り）	12
合計			100

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（1 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

1 県外転出の理由

（1）進学時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

① 将来の就活時での企業や業種の選択肢の多さを見込んで進学のタイミングから都会の学校を目指す

- 希望する学部（理学部）は県内大学にもあったものの、研究環境などを比較した際に県外大学を選択した。（10代・学生・高知市外出身）
- 希望する学部（文学部）は県内大学にもあったものの、図書館司書の資格取得まで大学でできるのは県外大学であった。（20代・社会人・高知市出身）
- 希望する服飾関係の専門学校は県内にもあったものの、**就職時にデザイナーや生産管理の職を目指すとなると県内企業では求人がないか**と思い、県外へ進学した。（20代・社会人・高知市外出身）

② 高校時代までの周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さに不満を覚え、**多様な価値観や文化に触れるため都会の大学を目指す**

- 親や先生、友人などの**周りの人が「こうありなさい」と型にはめようとしてくる機会が多く、狭苦しさを感じていた**。また、遊ぶところもカラオケやイオン、カフェに限られており、退屈していた。（20代・学生・高知市出身）
- 高校生までの自分の世界が狭いと思い、様々な土地で様々なバックグラウンドを持った人と話をし、多様な価値観に触れたいと思った。（20代・社会人・高知市外出身）
- 生まれてから高知県にいたので、1度違うところに住んでみたかった。自立したい思いがあった。（10代・学生・高知市出身）

③ 本人の強い意向はないものの進学先を偏差値や周囲（親や先生）の意向により県外居住を選択

- やりたいことは決まっておらず、文系の学部の中から自身の学力で目指せる高い偏差値の大学を選んだ。（20代・社会人・高知市出身）
- 当初は県内進学で考えていたが、両親からの勧めで県外進学へ切り替えた（20代・学生・高知市出身）
- 教育学部で県内外の学校を考えていたが、県内大学は受からず、県外の大学へ進学を決めた。（20代・社会人・高知市外出身）

④ 親から自立するため県外居住を選択

- 生まれてからずっと高知県にいたので、1度違うところに住んでみたかった。自立したい思いがあった。（10代・学生・高知市出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（2 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

1 県外転出の理由

（2）就職・転職時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

- ① 「自身のスキルアップ・経験の蓄積を重視する点」や「企業における将来の発展性やチャレンジ精神を求める点」から、県外企業の方が魅力的に感じる

【スキルアップ】

- ・ 県内で希望の業界には就いたものの、その中でやりたい業務内容を県内の企業で実現することが難しかった。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 当初は高知で就活したものの、希望する国際関係の仕事は県内になかった。（30代・社会人・高知市出身）
- ・ 広告業界の営業職に就きたかったが、県内では高卒を対象とした求人がなかった。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 自身が希望する新規事業開発は高知県内企業では実現ができないと感じていた。（30代・社会人・高知県外出身）

【将来性・チャレンジ】

- ・ 県内企業は新しいことをしようという意思が弱く、現状維持志向が強いと感じる。（30代・社会人・高知県外出身）
- ・ 高知県内で合同説明会にも参加したが、会社や業務内容の規模感が小さいと感じ、県内での就職は選択肢に残らなかった。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 高知県で安定した職業となると、公務員か教員か銀行員がイメージされる。しかし、安定志向の人でそれらの職業に就けないような人は県外に出て就職せざるを得ない。（20代・社会人・高知市外出身）

② 給与面から就職先を選択

- ・ 県内企業は給与水準が低いことが理由。家賃も安い訳ではないので、県外での就職を考えた。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 就活時には、大企業で給料が平均以上のホワイト企業を志望していた。（20代・社会人・高知市出身）

③ 給与条件だけでなく育児支援に関する制度や社員の理解が進んでいる企業を目指す県外企業の方が選択肢が多い

- ・ 給与やネームバリュー、結婚・出産しても働き続けられる福利厚生を考えると大企業が望ましいため、県内企業は少なく候補として考えなかった。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 結婚・出産した後も仕事が続けられるよう育休制度を重視しており、そうすると大企業の方が制度が充実している印象があり県内企業は選択肢が限られる。（20代・学生・高知市出身）

④ 本人の強い意向はないものの周囲（親など）の意向により県外居住を選択

- ・ 高知県内で自身が就きたいと思うような仕事がなく悩んでいたタイミングで、当時付き合っていた恋人が東京で就職となったため、自身も東京での就職を決めた。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 親もデザイン系の仕事をしており、「県外の方が情報や仕事数も多いため、県外に出た方がよい」と言われていた。そのため、県内でのデザイン系の専門学校卒業後は東京で就職を決めた。（20代・社会人・高知市外出身）

⑤ 高知県で暮らし続けることに不満や不安があるから県外居住を選択

- ・ 県内就職が決まっていたが、当時の恋人と別れたことから県外就職を目指した。県内は若年層が少なく理想とする年収や学歴の相手と出会う機会が少ないため。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 親族や近所の人にプライベートなことまで知られているような窮屈さがあり、早く県外に出ていきたくった。（30代・社会人・高知市外出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（3 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

2 進学時・就職時に抱いていた思い

（1）高知県への不満として挙げられた主な点は以下の4点。

① 周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さ

- ・ **人間関係が狭い。**母親が近所の人と他人の噂話をしている姿を見て、違和感を覚えていた。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ いい意味でも悪い意味でも人のつながりが強い。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 少し派手な服を着ただけで注意されるなど**親や近所の人も保守的な人が多く、狭苦しく感じた。**（20代・社会人・高知市外出身）

② コミュニティの狭さ

- ・ **遊ぶ場所が大手量販店に限られ、友人や家族と会うこともあり、コミュニティの狭さを感じる。**（20代・学生・高知市外出身/30代・社会人・高知市出身）

③ 交通の便（県内アクセス・県外アクセスともに）

- ・ 県外などに遊びに行く際も車で何時間もドライブしなければならず、高校生で運転もできない当時はやることもなく退屈だった。（20代・学生・高知市出身）

④ 生活環境（レジャー・娯楽施設の少なさ）

- ・ **遊ぶ場所が大手量販店に限られ、友人や家族と会うこともあり、コミュニティの狭さを感じる。**（20代・学生・高知市外出身/30代・社会人・高知市出身）
- ・ スターバックスなど**チェーン店は高知市内中心部まで行かないとお店がない。それは不便だった。**（10代・学生・高知市出身）
- ・ スポーツ観戦や音楽鑑賞などイベントを気楽に楽しむ環境が無く、物足りなかった。（30代・社会人・高知市出身）

（2）概して、参加者の多くからは高知県の自然や食、住む人の人柄へ好意的な意見を伺えた。

- ・ **高知県はおおらかな人が多く、気に入っている。**（10代・学生・高知市外出身）
- ・ ご近所付き合いなどをみても、**高知県の人には温かいと感じた。**（20代・学生・高知市外出身）
- ・ 道を歩いている時に話しかけられる時があるなど、気さくな人が多いイメージ。**誰でも受け入れてくれる感じはあったと思う。**（10代・学生・高知市出身）
- ・ **いい意味でも悪い意味でも人のつながりが強い。**近所内で一人暮らしの年配の人とかを気遣ってくれるとかのいい面もある。（20代・社会人・高知市外出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（4 / 7）

（県外居住者からのヒアリング内容）

3 将来的なUターン意向

（1）漠然といつかは帰りたい気持ちはあるものの、近い将来ではないという意見が多く挙げられた。その理由としては、主に以下のとおり。

① **自身のスキルアップや経験の蓄積を重視している学生や社会人（未婚）は、高知県では自身の希望を十分に叶えられないと考えている。**

【仕事面】

- ・ **仕事での経験を積むことを考えると新卒のタイミングではない。**故郷なのでいつか戻りたいと思うが、いつ帰るかは具体的に考えてない。**高知で勤めた後、高知県外に転職できるイメージがない。**（20代・学生・高知市出身）
- ・ 戻りたい意向はあるものの、**キャリアアップや仕事面でのスキルアップを考えると今は戻るタイミングではない。**（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 大学卒業後は起業したいと考えており、**高知は人や企業が少なくビジネス規模が小さくなるため、このタイミングで戻ることは考えていない。**（20代・学生・高知市出身）

【仕事面以外】

- ・ 住み慣れていて、家族もいるので帰りたい気持ちはあるが、今帰ると高知県と進学先の世界しか知らず、視野が狭くなるのではないかと。より様々な場所で人や文化と出会いたい。（20代・学生・高知市外出身）

② 子育て女性は、**将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会（美術館・博物館など）、趣味の選択肢の多さを考えると、都会での生活を離れられないと考えている。**

- ・ 子育てが終わった30年後頃に戻りたいと思う。**県内には観劇や美術館などの文化施設が少なく、子どもに提供する環境としては物足りない。**子どもも自分と同じく大人になったら県外に出てしまうと考えると、子育て後のUターンがよい。（20代・社会人・高知市外出身）

（2）仕事や暮らしを考えるとUターンはできないと考えている。

- ・ 今のところ、高知に帰る思いはない。**東京に住んで、たまに高知県に帰る距離感がいい。**高知に残っている友人は少なく、**今の仕事や人間関係を手放してまで戻りたいとは思わない。**（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 都心へのアクセスや、**仕事関係での情報収集の機会の多さを考えると高知に戻るつもりはない。**しかし、高知に貢献したい思いはあるので、高知に仕事拠点を置くなどは将来考えてみたい。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 首都圏で暮らす中で、大都市への交通の便の良さに魅力を感じており、高知県に帰る思いはない。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ パートナーが高知県に住むことに抵抗感を示している。（30代・専業主婦・高知市外出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（5 / 7）

（県内居住者からのヒアリング内容）

1 県内居住の理由

（1）就職時の声としては、以下のような意見が挙げられた。

- ① 県外出身者であるが奨学金制度を活用し、県内企業へ就職
- ② 知人等からの紹介や就職活動の結果を契機に県内企業に就職

- ・ **進学の際に県内企業から奨学金を受けていたため、就職で高知県に来了。**それまで高知県には縁もゆかりもなかったが、自身の希望する奨学金の条件を満たす企業が高知県内しかなかった。（20代・社会人・県外出身）
- ・ **高知の知人と仕事関係のイベントを開催したことをきっかけに、自身の就きたい業種（IT系）の県内企業から声掛けしてもらった。**また、タイミングとしても当時大阪での恋人と別れたこともあり、高知県への移住を決めた。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ できれば県外で働きたい意向もあったが、**なかなか求人が出ない高知県内の建築関係の企業を紹介してもらえたので、Uターンでの転職を決めた。**（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 東京に進学したものの、人の多さやせわしない感じが肌に合わなかったため、高知に戻ることを考えつつ、東京と高知の企業を就活時に受けた。**東京で希望する出版社から内定を得られていれば東京に残ったが、不採用だったため高知の企業で就職した。**高知の企業は業界は絞らず、福利厚生と給料、知名度で比較検討した。（20代・社会人・高知市出身）

- ③ 家族や友人の近くに居たいから県内に就職
- ④ 住み慣れた地域を離れ、県外で一人で暮らすことへの不安があるから県内に就職
- ⑤ 子育てを考え、実家の近くにUターン

- ・ 親や親戚が皆県内にいるので、見知らぬ土地である県外に出ることは考えていなかった。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ **親や祖父母との距離を考えると高知県から出る思いはない。**（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 県外に出た友人から保育園に入れないなどの話を聞く中で、**実家の近くに居る安心感も踏まえてUターンを決めた。**（20代・社会人・高知市外出身）

- ⑥ 趣味を楽しめる環境を重視し移住

- ・ サーフィンが趣味で、県外から5年前に移住してきた。（20代・社会人・県外出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（6 / 7）

（県内居住者からのヒアリング内容）

2 高知県への思い

（1）自己成長やチャレンジする機会の提供や支援を求める声が挙げられた。

- ・ 若者が活躍できる場を増やさないと、県内に残る人は一向に増えないと感じる。（20代・学生・高知市出身）
- ・ 自身は県外に住む意向はないが、子どもには、自身の視野を広げるためにも一度は県外居住を経験してほしい。（30代・社会人・高知市外出身）
- ・ 就職では地元が比較的近い都会に戻ることを考えている。就職では自分の裁量が広く、やりがいのある仕事を希望する。（20代・学生・県外出身）
- ・ 高知県は自然が豊かで人が温かいところは好きだが、最終的には地元（県外）に帰りたいという思いがある。現在、教育関係の仕事に携わっているが、（キャリアを積むために）他県でも働いてみたいという思いもある。（30代・社会人・県外出身）
- ・ 比較的安定した職業に就いてはいるが、将来への漠然とした不安がある。IT関連など時代に即した新たなスキルを学びたいが、学ぶ環境が少ない。（20代・社会人・県外出身）

（2）女性のライフスタイルの多様化への理解を求める声として「女性の多様な生き方を認め、それぞれの生き方を支えるような支援をしてほしい（若い女性=結婚・妊娠・子育てに全て繋げないでほしい）」といった意見も挙げられている。

- ・ 結婚や子どもを視野に入れていない若い女性も高知に住んで働いていて、高知に住み続けようと思っていることを考慮してほしい。若い女性=結婚・妊娠・子育てに全て繋げないでほしい。（20代・社会人・高知市出身）
- ・ 婚活の際に、多くの男性が「料理が得意な女性としか結婚を考えていない」という意見を持っていた。高知県はまだ「料理とか家事は女性がするものだ」という考えを持つ人がいるということを感じた。（30代・社会人・高知市外出身）

3 Uターン経験者の思い

（1）自身が望む仕事があるというだけでなく、県内の企業や人と交流する機会がUターンを決断する後押しとなっている。

- ・ 高知の知人と仕事関係のイベントを開催したことをきっかけに、自身の就きたい業種（IT系）の県内企業から声掛けしてもらった。（30代・社会人・高知市外出身）

3. 若年層ヒアリング

ヒアリング結果（概要）（7 / 7）

（県外・県内居住者共通のヒアリング内容）

1 パートナーとの出会いに対する思い

- （1）県内では、出会いの機会が少なく、**結婚相手に出会えるか不安を感じている**との意見が伺えた。
- （2）県内における婚活イベントで、**女性への固定的役割分担意識**（例：料理は女性がするもの、結婚したら子どもを持ち育児は女性がするもの 等）を**持つ男性が多く、考え方や価値観が合わない**との意見が伺えた。
- （3）県内においてマッチングアプリを利用しているものの、マッチした相手と距離が離れているケースが多く、交際まで至らないという声も伺えた。

- ・ **結婚や子育てはしたい。ただ、独り身で高知県に戻ると県内で結婚相手に出会えるのかの不安がある。**高知県にいつかは戻りたいと思うが、戻るにしても結婚相手を見つけてからになるかと考える。（20代・学生・高知市出身県外在住）
- ・ **将来的に結婚はしたいが、積極的に婚活をするほどではない。ただ、職場以外での出会いの機会は少ない。**（30代・社会人・高知市外出身県内在住）
- ・ **パートナーをみつけ、子供が欲しいと考えている。**今の居住エリアでは出会いがないが、近々引越す予定である県内の他市では**20、30代の単身の移住者が多い**ため婚活をしたい。（30代・社会人・高知市外出身県内在住）
- ・ 数年前、婚活イベントに参加した際、参加者が高圧的な態度で嫌な思いをしたことが何度かあった。**今は結婚への意欲は低い。**（30代・社会人・県外出身県内在住）

2 出産や子育てを見据えた結婚に対する思い

- （1）結婚については、「ふさわしいパートナーがいれば、いつかはしたい」という意見が多く伺えた。こちらの意見の人は、**結婚に対し否定的ではないものの優先度が低い。**
- （2）また、結婚をする意思はないと答えた方の多くが、出産や子育てを見据え、金銭面や時間面で自分の**趣味や仕事に制約がかかってしまうことへの懸念を理由に挙げた。**
- （3）出産や子育てを望む声もある中で、「責任が伴うもの」として不安を抱えている人もいる。それは経済的な面だけでなく、**SNS上の投稿から「自分が自由に使える時間が無くなることでの子育ての辛さ」や「親はこうあるべきだ」といった「責任」の大きさを感じている**との意見が挙げた。

また、出産や子育てをする意思がない方は、その理由として「**自分が自由にできる時間やお金が制限されてしまうことへの懸念**」や「**子育てに伴う責任を負えるかの不安**」、「**日本の社会情勢などを踏まえた漠然とした不安**」がある。

- ・ **結婚はできればしたいが、絶対にしたいという強い思いはない。**（20代・学生・高知市出身県外在住）
- ・ **結婚はしたいと思わない。**結婚の先の出産まで考えたときに、**金銭面や時間面で、自分の趣味や仕事に制約がかかってしまうことへの懸念**がある。（20代・学生・高知市出身）
- ・ **結婚に対する不安はない。**ただ、SNSを見てると「子育て辛い」といった投稿を見かけることも多く子育てに対する不安は増している。（20代・学生・高知市外出身）
- ・ 結婚や子育てに対して、例えば**SNSでよくみる「親はこうあるべきだ」といった社会から求められる「責任」が大きい**ため不安がある。（20代・社会人・高知市外出身）
- ・ 子どもは欲しいとは思わない。妹が子育てをしており、**自分の時間を持てない点や夜泣きの対応しているのを間近で見ていると、子どもは可愛い自分では産みたいと思わない。**（20代・社会人・高知市出身）

4. 考察

若年層ヒアリング調査から把握できる若年女性の居住地決定に関わる要因

多くの人は人生のターニングポイント（進学、就職/転職、結婚、出産/子育て）の選択と連動して居住地を決定している。その際、意思決定に影響を与える要因を以下の定義のとおり「主要因」と「プッシュ要因」と名付け整理する。各要因の影響力は人によって濃淡が大きく異なるが、各要因を総合的に判断して居住地を選択している。

区分	定義	各要因
主要因	ターニングポイントと密接に関わり、居住地の決定に影響を大きく与える要因	①学校選択（家庭の経済状況、専門性+将来の就職のしやすさ、難易度） ②仕事 ③パートナーとの居住
プッシュ要因	日々の生活と密接に関わり、多くの場合それ自体では居住地変更まで迫らないものの、ターニングポイントにおいて居住地の変更を促しうる要因	④周囲の価値観 ⑤交通（日常生活） ⑥生活環境 ⑦子育て環境 ⑧パートナーとの出会い ⑨親との距離 ⑩人間関係・コミュニティ ⑪趣味（旅行や推し活等を含む）

4. 考察

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因①

若年層ヒアリング及び既存調査や希望地等意識調査の結果を踏まえ、県外転出・Uターン阻害に大きく影響を与える要因は「①学校選択」「②仕事」「③パートナーとの居住」「④周囲の価値観」であることが推察される。

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かること	若年層ヒアリングから分かること (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
主要 因	①学校選 択 (大学/専門 学校等)	- 県内学生（女性）の40.1%が県外進学を希望している。 - その理由として「希望する学校・学部があるから」（40.3%）が最も多く、「将来の就職を見据えた場合に有利だと思うから」（18.8%）「都会で学びたいから」（13.8%）が続いた	- 県内大学の魅力がないという訳ではない。県外からの志望者もいれば、希望するものの不合格でやむを得ず県外に出る人もいる。 - 選択肢が少ない（学校自体及び有する学部の双方の観点）という点が県外進学を高める要因となっている。	以下の2点から県外転出を促す要因となっている。 ➢ 学校自体及び有する学部双方の観点で、選択肢が少ない ➢ 将来の就職のしやすさは県外大学の方が勝って見えている
	②仕事	- 学校種別ごとの女性の県外就職希望率は以下のとおり。 ➢ 県内高校生：16.2% ➢ 県内専修学校生：19.4% ➢ 県内大学生等：33.2% ➢ 県外大学生等：12.5% - 全ての学校種別において、就職する企業に希望するものとして、「休暇が取りやすい」、「給与や賞与が高い」、「経営が安定している」、「福利厚生制度が充実している」が上位にあがっている。	- 人によって重視するポイントの濃淡は異なるが、若年女性が仕事に求める点として大きく以下が挙げられる。 ➢ 自身が得られる成長機会 ➢ 仕事を通じたやりがいや楽しさ ➢ 働き続けられる安心感（十分な給与や充実した育児支援制度） ➢ 他人から評価を得られる会社のネームバリュー - 就活で得られる情報は限られるため、上記の1～3点目について会社規模や業界で判断をしまっているのではないかと推察される。その結果、知名度の高い大手企業が好まれ、県外就職を高める要因となっている。	以下の点から県外転出を促す要因となっている。 ➢ 若年女性が仕事に求める点に対し、県内で希望を叶えられる企業が少ないイメージをもたれている
	③パート ナー との居住	高知県外在住女性の転出きっかけとして「結婚」が9.1%、「配偶者の仕事の都合」が4.0%であった。（人口移動に関する意識調査実施報告書より）	- 結婚後はパートナーと同居するケースが大宗であるが、パートナーが県外在住の場合、パートナーの居住エリアに引越す若年女性が多い傾向にある。 - その理由として以下2点がヒアリングから推察される。 ➢ 高知県内でパートナーが望む仕事が見つからない ➢ 女性側が専門職の場合、居住地変更のハードルが低い	若年女性の県外転出者のうち、パートナーとの居住を理由とする層は一定数（約1割程度）おり、県外転出を促す要因となっている。

4. 考察

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因②

(前頁の続き)

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かること	若年層ヒアリングから分かること (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
プッシュ要因	④周囲の価値観	既存調査/希望地等意識調査からは把握できず	- 県内で暮らす中で感じる不満の一つとして、周囲と異なる意見や価値観に対する寛容性・許容度の低さがある。 - 規範的若しくは特定の価値観の中で生きている大人と接する機会が多い中で、周囲の大人と異なる価値観を持つ様々な人と出会う機会が少ないことから抑圧的な雰囲気を感じていると推察される。	寛容性・許容度の低さに対し不満を抱く人にとっては、 県外転出/Uターン阻害に大きく影響を与える要因となる。
	⑤交通(日常生活)	- 県外居住女性が回答した「県外転出した若年層が高知県に住み続けたくない理由」において、「交通のアクセスが悪いから」と回答した人は27.9%にも上る。(人口移動に関する意識調査実施報告書より) - また、県外居住女性がUターンしたくない理由として「交通のアクセスが悪いから」と回答した人は49.3%にも上る。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	主には学生から不満として多くあり、Uターンを阻害する要因としての影響力が強い。	- 主には自動車を持たない学生において県外転出を促す要因となっている。 交通アクセスの悪さはUターンを阻害する要因としての影響力も強い。
	⑥生活環境	県外居住女性がUターンしたくない理由として「買い物環境が悪いから」と回答した人は7.5%に留まる。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	学生と社会人では生活環境に求める内容が大きく異なる。高校生までネガティブに見えていた環境を社会人になってからポジティブに捉え直すケースもある。	主に学生において 県外転出を促す要因となりうる。
	⑦子育て	県外居住女性が回答した「県外転出した若年層が高知県に住み続けたくない理由」において、「子育て環境が悪いから」と回答した人は3.3%に留まる。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	- 子どもが小さいうちは、子育ての手助け(実家・近所の方)を得られるということで県内在住にポジティブな評価がある。 - また、子どもがクラスに馴染めなかった場合に他の選択肢がない点への不安の声も聞かれた。 - 一方、将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会(美術館・博物館など)、趣味の選択肢の幅の広さに不安を抱えている。 - 特に教育については、経済的な豊かさが子どもに提供できる選択肢の幅に比例すると考え、その選択肢の幅を狭めることに対する不安を抱えている。	将来子どもに提供できる進学や習い事、文化的機会(美術館・博物館など)、趣味の選択肢の幅の広さに不安があるものの、 県外転出を強く促すほどではない。

4. 考察

高知県における若年女性の県外転出・Uターン阻害の要因③

(前頁の続き)

区分		既存調査/希望地等意識調査から分かること	若年層ヒアリングから分かること (再掲)	県外転出/Uターン阻害との関連性
プッシュ要因	⑧パートナーとの出会い	出会いや結婚に関する支援として、「結婚生活を始める際の金銭的な支援」が最もニーズが高く、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が続く。(出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない支援のための県民意識調査より)	- 県外転出の主要因とはならないものの、県内在住者(特に高知市外)の不安としてある。 - 結婚に対して「いい人がいれば、いつかしたい」と考えている層は、積極的な婚活をしていないためパートナーとの出会いが少ない。 - 一方、積極的に婚活をしている層もマッチングアプリや婚活イベントが機能しない中で出会いの機会に苦慮している。	出会いの機会の少なさは不安としてあるものの、県外転出を強く促すほどではない。 - 結婚を望む女性にとっては、Uターンを阻害する要因となりうる。
	⑨親との距離	県内居住を志望する理由について「親と同居または近くで暮らしたいから」と回答は約2割ほど。その一方、県外居住を志望する理由として「親から自立したから」の回答も3割ほど。(令和6年度希望地等意識調査より)	親との関係性もあるが、多くは自己成長のため一度は親元を離れ暮らしたいという考えを持っている。その場合は、県外転出の要因とはなるがUターンを阻害する要因とはならない。	一概に県外転出を促す要因とは言えない。
	⑩人間関係・コミュニティ	県外居住女性がUターンしたくない理由として「人間関係が煩わしいから」と回答した人は11.9%ほど。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	地域のつながりの強さは、性格や自身の状況(学生、子育て中なのか等)によって、良い面・悪い面の捉え方は変わる。そのため、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。	ヒアリング調査を通じると県外転出を強く促す要因とは言えないものの、既存調査からはUターンしたくない理由として一定数が挙げている。
	⑪趣味	県外居住女性がUターンしたくない理由として「娯楽・レジャーの場が少ないから」と回答した人は14.9%ほど。(人口移動に関する意識調査実施報告書より)	- 一部の人は趣味のために居住地を選択するほど、強い影響力を持つ場合がある。 - 趣味も多様であることから、一概に県外転出を促す要因になっているとは言えない。	一概に県外転出を促す要因とは言えない。

4. 考察

若年女性のライフデザインに関する指向性（7タイプ）

若年層ヒアリング調査の結果から、若年女性のライフデザインに関する指向性のタイプが7つに分類できる。

ライフデザインに関する指向性のタイプ	特徴	ヒアリングにおける回答例
A チャレンジ型 (勉学・仕事関連)	自身のやりたい事・目指したいものが明確に決まっており、それに向かって努力するタイプ	- 県内大学では希望する薬学部が無く、県外を目指した。 - 希望する学部（文学部）は県内大学にもあったものの、図書館司書の資格取得まで大学でできるのは県外大学であった。
B 自己成長型	やりたい事は明確に決まっていないものの、自身のスキルや知見を高める、もしくは価値観を広げるために新しい環境に出ることに意欲的なタイプ	- やりたいことは決まっておらず、文系の学部の中から自身の学力で目指せる高い偏差値の大学を選んだ。 - 様々な土地で様々なバックグラウンドを持った人と話をし、多様な価値観に触れたい。
C バランス重視型	人生において仕事や家庭、趣味のバランスを重視するタイプ。仕事においては一定水準の給与で長く働くことを求めるタイプ	- 給与やネームバリュー、結婚・出産しても働き続けられる福利厚生を考えると大企業が望ましいため、県内企業は少なく候補として考えなかった。 - 新卒でホテルに就職したものの、労働時間も長く休日勤務も多く、より自分の時間を確保したいと思った。
D 現実志向型	自身のやりたい事はありつつも叶わないことから、自身が得られる環境（選択肢）の中で生きるタイプ	音楽関係の仕事に就きたかったが、現実的に難しいので県内企業に就職した。
E 安定志向型	大きな環境の変化を好まず、家族や地元の友人関係などを維持できる範囲で進学や就職などのタイミングで意思決定するタイプ	- 親や親戚が皆県内にいるので、見知らぬ土地である県外に出ることは考えていなかった。 - 地元を積極的に離れることは考えていなかった。高校卒業後、身近な企業の中で求人が出ている企業の中から給与面を重視し選択した。
F 親からの自立型	親から自立することを重視するタイプ	生まれてから高知県にいたので、1度違うところに住んでみたかった。親から自立したい思いがあった。
G 趣味優先型	自身の趣味を優先して行動をするタイプ	- アイドルグループのファンでライブ参加するためになんとしてでも東京に出たかった。 - サーフィンが趣味で、県外から5年前に移住してきた。

4. 考察

【若年女性タイプ別】県外転出傾向と転出意向の変更可能性

チャレンジ型や自己成長型は県外転出傾向が強い一方、安定志向型は弱い。また、県外転出にあたって明確な目的があるタイプ（チャレンジ型や趣味優先型）は意向変更が難しいと推察される。

タイプ	県外転出傾向		県外転出意向の変更/Uターン検討の可能性 ※（）内はヒアリングできた意見
	主な転出要因	転出傾向	
A チャレンジ型 (勉学・仕事関連)	県内で自身の希望を叶えられる環境（学校や職場等）が無い	強い	転出者の多くは県外でしか叶えられない明確な目的があるため、県内で同じ環境を提供できない限り 意向変更は難しい
B 自己成長型	県内で自己成長できる環境（学校や職場等）が無い	強い	県内でも自己成長につながる環境（学校や職場等）があることを提示することで、 意向変更の可能性あり （例：仕事での経験を積むことを考えると新卒のタイミングではない。故郷なのでいつか戻りたいと思うが、いつ帰るかは具体的に考えない。高知で勤めた後、高知県外に転職できるイメージがない。）
C バランス重視型	趣味やプライベートとのバランスを保てる仕事（給料・休暇取得面）に就けない	やや強い～やや弱い	県内でも趣味やプライベートとのバランスが実現できる仕事（給料・休暇取得面）に就けることを提示することで、 意向変更の可能性あり （例：就活時には、大企業で給料が平均以上のホワイト企業を志望していた。高知県内で合同説明会にも参加したが、会社や業務内容の規模感が小さいと感じ、県内での就職は選択肢に残らなかった。）
D 現実志向型	県内で自身の希望を叶えられる環境（学校や職場等）が無い ※やりたい事の実現に向けた一時的な県外転出の可能性はあるが、県内にUターンする傾向が強い	やや弱い	自身のやりたい事の実現に向けた県外転出についての意向変更は難しいものの、その後やりたい事の実現が叶わなくなった時点での Uターン検討の可能性あり
E 安定志向型	-	弱い	-
F 親からの自立型	進学・就職のタイミングで親からの独り立ち	やや強い	県内でも親からの自立につながる就業や住宅環境があることを提示することで、 意向変更の可能性はややあり
G 趣味優先型	- 県内で自身の趣味を実現できる環境が無い - 県内で自身の趣味を続けられる仕事（給料・休暇取得面）に就けない	必ずしも県外転出の傾向があるとは言えない	趣味の実現ができる環境を求めて県外転出をしており、県内で同じ環境を提供できない限り 意向変更は難しい